

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

P.15参照

風水害(台風・大雨)のことを知ろう

警戒レベルと、そのとぎとるべき行動

警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
大雨になりそう	大雨注意報が出た!	大雨・洪水警報が出た!	土砂災害警戒情報が出た!	大雨特別警報が出た!
大雨になった場合を想定して、心構えをする	どう避難するか、確認する	避難に待機がかかる人は、避難を開始する	安全な場所へ避難する	すぐに命を守る避難行動を行う!

住んでいる地域や家でこんな被害が出るよ!



【児童考察】

自分たちの住んでる地域ではどのような危険が起こりうるか、過去の例を見ながら想定させる。

《風水害による具体例》

◎2018年7月豪雨災害

西日本を中心に発生した豪雨により、広範囲で河川氾濫や土砂災害が発生し、多数の死傷者や行方不明者が出た。

◎2019年台風15号

関東地方を中心に発生した台風により、強風による屋根の飛散、樹木や電柱の転倒、内水氾濫などの被害が発生。

◎2021年台風9号

九州地方を中心に発生した台風により、大雨による河川氾濫や土砂災害、内水氾濫、強風による倒木や停電などの被害が発生。

※参照：東京都防災ホームページ

【ハザードマップのミニ知識】

ハザードマップは、自然災害が発生した場合に被害が想定されるエリアや避難場所などが示された地図であり、8種類ある。

その中でも洪水ハザードマップとは洪水が発生した場合に浸水が予想されるエリアが、浸水の深さごとに色分けされている。河川に近いエリアは被害予測が大きくなることが多い。危険な地域には黄と緑で示されており、その地域に住んでいる人は大雨の際には注意が必要。

※参照：国土交通省「ハザードマップポータルサイト」

風水害に備えよう!

台風や大雨は、事前にくることがわかるから、前もって備えておくことが大事だよ!

横浜市が開く避難場所



どこを避難場所として開くかは、災害の大きさや状況によって違ってくるんだ。風水害時に自分が住んでいる区のホームページやテレビなどで確認するようにしよう。

ハザードマップを使って、住んでいる地域が

どれだけ危険か確認しよう!

おうちや通学路、学校など、身近な場所に危険がないかを今のうちから見ておこう。

横浜市 防災の地図



★ハザードマップは区役所で配布しているよ!!

家が安全な場合は、家に待機しよう
必ずしも避難場所へ行く必要はないよ。

家の2階が安全な場合は、家の2階へ避難または、近くの高い建物へ避難

安全な場所への避難
(横浜市が開く避難場所、安全な親戚の家など)

風水害が起きたときの避難行動のポイント



【風水害時の避難場所の説明】

風水害の場合、必ずしも地震の際の避難所である地域防災拠点(小・中学校)が開設されるわけではない。地区センター、自治会庁内会館等が開設される場合もある。そのため、避難する場合は、必ず市や居住している区役所のホームページで開設されている避難場所を確認する。

※参照：横浜市「風水害時に開設される避難場所について」

P.15参照

文字の色について

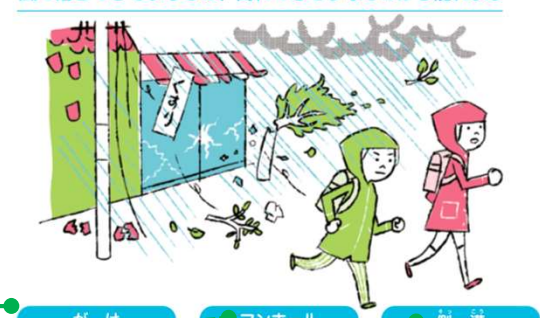
赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

登下校中、台風や大雨がきたら？

風で落ちてきそうなもの、倒れてきそうなものから離れよう



● かけ ● マンホール ● 側溝

できる限り
がけから離れよう

傘などで足元を
確かめよう

むやみに近づかない

がけが
起こるサイン


- ・小石がバラバラ落ちてくる
- ・がけから家が岨まき出ている
- ・がけにヒビが入っている

ココが大切！


- 学校に行く前に天気予報を確認するようにしよう。
- 1時間に10mm(やや強い雨)以上の雨が降る予報のときは注意が必要だよ。

家にいるとき、学校が休みのとき、台風や大雨がきたら？

● 自分の家、友だちの家にいたら？ ●




家が安全な場合には、家の2階など安全な場所にしよう




家が安全でない場合には、避難場所などに避難しよう

● 屋外にいたら？ ●



川の水量が増えてきたら、すぐ川から離れよう



ものが飛んでくることもあるので、安全な建物の中に避難しよう

ココが大切！

● 川について知っておこう

- ・川の水量が増えるのは、その場で雨が降っている時だけじゃない!
- ・川の上流で雨がたくさん降っていると、降った雨が下流に流れてくるよ。急に水量が増えたり流れが速くなることもあるから、川の近くにいるときは気をつけよう。

【屋内でのミニ知識】

大雨の際、家の中にいる場合は、窓やドアを閉め、電気やガスを消して、安全な場所に避難する。

一階は浸水する恐れがあるため、なるべく高いところ(二階など)で待機する。

※参照：横浜市「台風・大雨への備えについて」

【屋外での避難のミニ知識】

川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどが発生しやすい、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス(体交差で、掘り下げ式になっている下の道路。くり抜け式通路)等の地下空間の水没といった被害も発生している。

これらの場所に近づかないようにするのが大切。

台風や大雨がきたら、ただちに頑丈な建物内に避難する。

※参照：気象庁「浸水キキル」

【がけのミニ知識】

がけ崩れが起こるには前兆現象がある。前兆現象がみられたら早めの避難行動を取る。

また、前兆現象の発生からがけ崩れの発生まで間が無い場合や、前兆現象がなくがけ崩れが発生する場合もある。危険を感じたら、早めに避難する。

【マンホールのミニ知識】

大雨により道路にあるマンホールのふたが外れている場合があるので、十分注意して近寄らないようにする。

【側溝のミニ知識】

集水桝の中が土砂などで溜まっていたりすると、排水ができずに側溝からも水があふれ出してくる。そして、道路などに水が溜まってしまう。

※参照：横浜市「台風・大雨への備えについて」

【児童考察】

1時間に10mm以上～20mm未満の降水量では、「やや強い雨」の階級に分類される。地面には一面に水たまりが出来、跳ね返りで足元が濡れる。また、木造住宅の屋内では雨の音で話し声がよく聞き取れなくなる程度の雨が降る。

登下校の際の行動を自分で判断させたり、それを保護者には提案できる力を身につけさせたい。

《大雨の際の登下校の注意点》

- ・登校前に天気予報を確認し、必要に応じて傘やレインコートを持参する
- ・視界が悪くなるため、歩き方に注意。歩幅を小さくし、足元に注意して歩く。
- ・道路が滑りやすくなるため、靴底が滑りにくい靴を履く。歩道の浸水具合によっては、長靴よりも普段履き慣れた運動靴の方が安全。

※参照：気象庁「雨の強さと降り方」

